



「次なる百年の森づくりをめざして」

校長 真玉 保浩

島根県立出雲高等学校は、2020年（令和2年）で創立百周年を迎えることになりました。その間、平田植物園・久徴園は学校植物園として、多くの生徒・教職員の情操を育み、自立する若者の人格形成に大きく貢献してきました。全国的にもこの類い希なる貴重な財産を次の世代へ繋ぎ、久徴精神を育めるように、この度、百周年記念事業として、平田植物園・久徴園の整備に合わせて、平田植物園めぐり（冊子）の新訂版とガイドブック（パンフレット）の製作を行うことになりました。

平田植物園は出雲高校の植物園で、出雲高校の校地及び久徴園と称する裏山を含む一帯をさします。1904年（明治37年）に本校の前身である島根女子師範学校に赴任した平田駒太郎教諭によって創設されたので、「平田植物園」と呼ばれており、すでに一世紀を超えた伝統ある植物園です。植栽されている草木は、県内の植物を主とし、一部県外や国外の珍しい植種も植えられています。特に、1号館と2号館の間の中庭には、落羽松、テダ松、大王松などの平田先生お手植えの樹が大きく育っています。

元本校 PTA 会長で学校歯科医を勤められた西村祐二先生は、次のような一文を残しておられます。「平田植物園とは単なる学校の一施設ではない。それは多くの卒業生と地域社会の人々の情操を育んできた教材であった。（中略）平田植物園はこの学校に学ぶ者の精神の基調を育んでいる。出雲高校の生徒が、粗野に流れず、品格を保っているのはその根本はこの環境にある。」

平田植物園の草木を紹介した「花暦」[1978年（昭和53年）3月初版]は、創立80周年記念事業として新たに「平田植物園めぐり」[2000年（平成12年）9月初版]として生まれ変わり、整備事業の終了を機に内容がコース順に一新され、改訂版[2008年（平成20年）3月]として発行されました。その後、植生実態の変化を踏まえた改訂三版[2013年（平成25年）9月]、続いて改訂四版[2017年（平成29年）]の発行を行いました。

最近では学校広報に力を入れ、出雲高校ホームページのトップページに「久徴園」のバナーを置き、季節毎に校舎を彩る草木を紹介しています。その鮮やかな植物群の写真を見るだけで平田植物園・久徴園がいかに優れた植物の宝庫であるかが伝わってきます。皆様には、この冊子を生きた参考書として平田植物園・久徴園に目を向け、足を運び、出雲高校での思い出を彩ってほしいものと思っています。

終わりに、次なる百年の森づくりに向けた久徴園整備原案作成委員会の板倉宏文委員長様、久徴園管理委員会の皆様、また編集にご尽力いただいた青木充之先生及び出雲高校生物部卒業生の皆様方、そして日々整備に汗を流してくれている本校管理担当の青木博志氏と柳浦正夫教諭をはじめとするすべての関係の皆様にご心から御礼申し上げます。



「次なる100年の人づくり」

久徴会会長 池淵 俊雄

「夕日に映ゆる鷹の澤 久徴園のまどいをば…」(今市高女校歌)から「翠色濃き鷹の澤 久徴園に鳥啼きて…」と久徴園は校歌に歌い継がれて、出雲高校は今年創立百周年を迎えます。この大きな節目に、この学園を守り育ててくれた平田植物園・久徴園の図録「平田植物園めぐり」の新訂版が発刊できますことは、大きな喜びであります。そして百年以上も前にこの植物園を造営し、今日のわたくしたちに託していただきました平田駒太郎先生はもとより、これまで献身的に守り育てて頂いた多くの方々に敬意と感謝を捧げます。

久徴園は単なる植物園ではなく、学び舎を新鮮な空気で清浄にし、季節を彩る植物とそこに集まる鳥や昆虫、微生物などあらゆる存在が、自然と人々の心を癒し健全な心身を育んで来たのだと思います。まさしく情操教育の基幹として存在してきました。そしてこれからもその役割は続き、出雲高校の象徴としても永く守っていかねばならないと、その重大さに身震いする思いです。

平田先生ほど植物に対する造詣は深くありませんが、この際その万分の一でも植物に思いを馳せてみたいと思います。そもそも私たち人間や動物がこの地球上に誕生できたのは、35億年も前から植物が酸素を供給してくれたからこそです。植物は目も鼻も耳も口も足もなく、人間のように見たり嗅いだり聞いたり食べたり、会話をし喜んで飛び跳ねたりもしません。大地にしっかりと根を張り、太陽の光と空気、水によって黙々とひたむきに生きて自然界を潤し、私たち人間はもとより、あらゆる生命体に役立っています。季節が来れば芽を出し葉を広げ美しい花を咲かせ、おいしい実をつけます。目もないのに、昆虫や鳥や動物が誘われる色や形になることをどうやって学んだのでしょうか。自分の種を風に運んでもらうために羽を付けたりして飛びやすくすることを、誰に教えてもらったのでしょうか。

とても不思議な事だと思います。植物は私たちが気付かない思考能力や情報伝達方法を持っているのかもしれませんが。久徴の森には謎と神秘が無尽蔵に潜んでいます。まさに、これからの人間の生き方を導いてくれる知恵の宝庫ではないかと考えます。今日の地球温暖化、異常気象、更には新型ウィルス等の災禍に見舞われている人間社会が、この先、千年も万年も永遠に続くためのヒントを、いつか誰かがこの久徴の森から見つけ出してくれることを願っています。

この度の創立百周年記念事業の根幹は、出雲高校らしい次なる100年の人づくりとしての、「地域を照らし、世界を拓く人材の育成」です。その根幹としての久徴園の存在意義の大きさに鑑み、久徴園の整備維持は必須であると考え、整備事業を進め、また一層の久徴園の認知、活用を意図し、この「平田植物園めぐり」の新訂に取り組むこととしたところです。卒業生の皆様方には、事業推進のために浄財をお寄せいただきましたことにこの場を借りて御礼申し上げます。

終わりに、久徴園整備に向けて誠心誠意、現地調査や企画会議を重ね案を立てていただいた、板倉委員長はじめ整備原案作成委員会の皆様、本誌の原稿づくりに心血を注いで下さいました青木充之先生、編集に敏腕を振るった青木博志氏など、ご尽力いただきました関係の皆様に深甚なる敬意と感謝を捧げ挨拶いたします。

平田植物園めぐり

— 百年の森 —





目 次

「次なる百年の森づくりをめざして」

校長 真玉 保浩

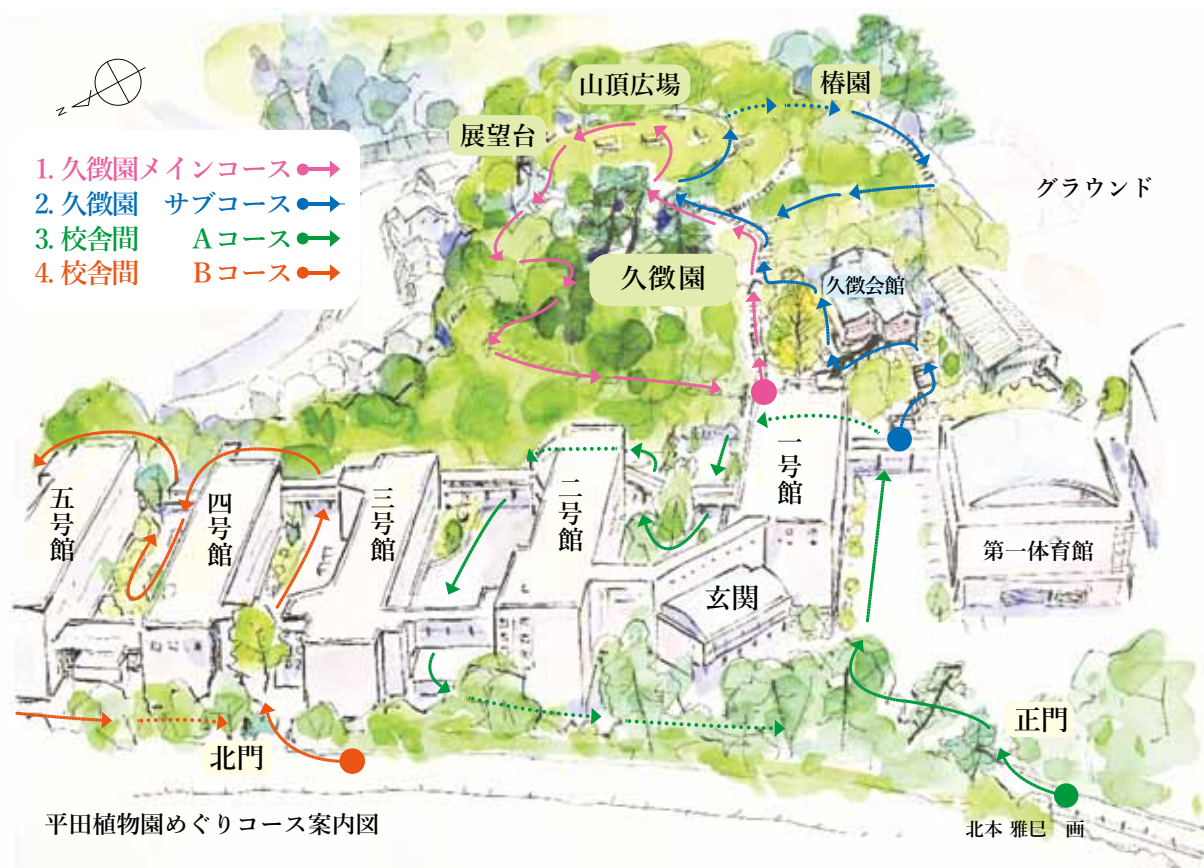
「次なる100年の人づくり」

久徴会会長 池淵 俊雄

平田植物園・久徴園めぐりコース案内図

はじめに

平田植物園とは	1
1. 久徴園メインコース	2
〈随想〉「翠色濃きは学舎の通奏低音」 / 梶 恒雄	44
2. 久徴園サブコース	46
〈随想〉「久徴園に鳥啼きて」 / 山崎 育男	85
シダ植物の仲間	86
〈随想〉「かけがえのないもの」 久徴園ころろ旅 / 田中 和彦	90
3. 校舎間Aコース	92
〈随想〉「平田植物園・久徴園 - 次なる百年の森づくり」 / 板倉 宏文	128
4. 校舎間Bコース	130
〈随想〉「久徴会基金」設立の思い ～出雲高校創立百周年記念事業の経緯～ / 岩崎 知久	146
平田植物園・久徴園の記録	148
索引	150
あとがき	152



◎ 平田植物園には、4つのコースがあります。

1. 久徴園メインコース / 2. 久徴園サブコース
3. 校舎間Aコース / 4. 校舎間Bコース

◎ コースごとに、順番に植物の紹介をしています。

(全ての植物の紹介はできないため、主たるものを紹介しています。)

◎ 植物名には、和名(科名/花期/結実期)が示してあります。

(花期/結実期は、その年によって前後する場合があります。)

	和名	科名	花期	結実期
例	カキツバタ	(アヤメ科)	花期/5～6月	結実期/9～11月)

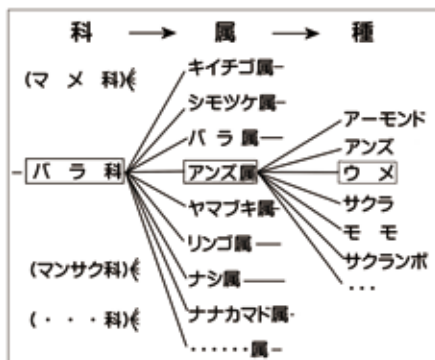


竹田 茂・画

はじめに

1. 植物の分類について

地球上に野生している維管束植物（シダ類、裸子・被子植物）だけでも、大凡 23 万種類以上あるといわれている。こんなに沢山の種類をただ羅列するだけでは、探すのに苦労する。そこで、整理して分類することがなされた。その方法はいくつかあるが、もっとも利便な分類はその植物の形態、大きさ、分布、発達の程度等々から“進化”に沿って分類する方法であった。下等なものから高等な植物へと並べるのである。数世紀にわたって多くの分類が提案されてきたが、最も新しい分類は、クロンキスト分類体系といわれるものである。最近までの植物図鑑などの植物の並べ方はこれに従っている。また、沢山の植物を整理するのに、グループ分けをした。大きなグループから小グループへと段階的に分類し、最後に“種”に到達する。その段階は、門→綱→目→科→属→種。例えば、ウメを例にとると、被子植物門→モクレン綱→バラ目→バラ科→アズキ属→ウメとなる。図にすると右図のようになる。この平田植物園めぐりでは、科名と種名、時々属名を用いて説明をしている。



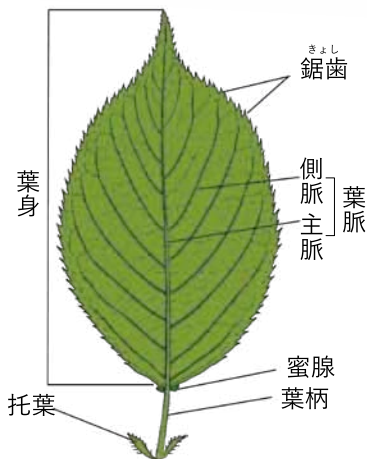
2. APG III分類体系について

上記にも書いたように、最近までの植物分類体系はクロンキスト分類体系であった。しかし、生物の特徴は本質的に遺伝子 DNA によって決まるということから 1990 年代になって、世界の植物学者が、葉緑体などの DNA 比較分析をまとめ APG III分類体系 (2009 年) を作り上げた。これによって、分類の段階が上下したり、入れ替わったりした。例えば、スギ科がなくなってヒノキ科に包含されたといった例である。属の段階の入れ替わりもあった。そこで、将来のことも考えて、今回の平田植物園めぐりは、この APG III分類体系に従って、科名などを入れ換えてある。

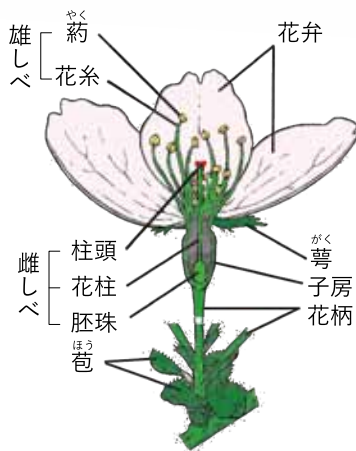
3. 花と葉のつくりと名称

平田植物園めぐりには、多くの植物各部の名称が出てくる。不明な単語が出た場合は下図を見てもらいたい。

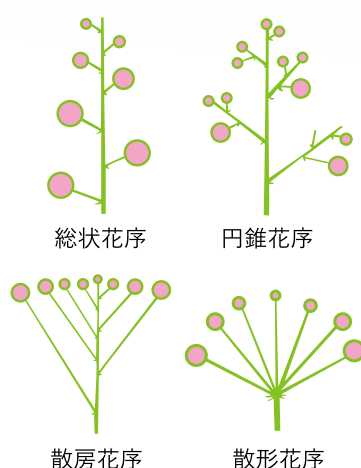
◎ 葉の構造と名称



◎ 花の構造と名称



◎ 花のつき方 (花序)



- 対生 (たいせい) → 葉や枝が 1 カ所から 2 個ずつ、対になってつく状態。⇔ 互生
- 互生 (ごせい) → 葉や枝が 1 カ所から 1 個ずつ交互につく状態。⇔ 対生

平田植物園とは

平田植物園とは、出雲高等学校の学校植物園です。本校の前身である島根県女子師範学校時代の明治 37 年 (1904 年) に平田駒太郎教諭によって創設され、先生の名前から平田植物園と命名されました。その由来が平田植物園碑 (1 号館南側) の裏に刻まれています。平田植物園は、出雲高校の校地及び、久徴園と称する裏山を含む一帯を指しています。

長崎県士族で博物の担当であった平田先生は着任早々、校舎間や久徴園に整然と植物を植栽し教材園とされました。当時は、約 6000 坪の園内に 800 種以上の見本植物が区分けして植えてあったといえます。おおよそ一世紀余を経た今日でも平田先生お手植えの樹木が 1～2 号館の中庭などに残っています。そのうちの一本にリキダマツというのがありました。池の前で支柱を立てられマツカサを精一杯つけて耐えていましたが、倒木の危険があるので、とうとう平成 12 年 1 月に伐採されたのは残念至極です。しかし、ダイオウショウ (大王松)、ラクウショウ (落羽松)、テーダマツ、ナギ (椰子)、アマミゴヨウ (ゴヨウマツ、奄美五葉)、ニオイヒバ (匂檜葉)・・・などは当時のまま生き残って中庭で天を摩して聳えています。また後に、柳楽 茂氏により、スギ、コウヤマキ、モミ、などが加植され、未だ小ぶりながら裸子植物園を維持しています。



平田 駒太郎 教諭



平田植物園碑

では、ご一緒に園内を巡り、コースに沿って植えられている樹木や草花を鑑賞していきましょう。植物が見せる美しさ、すばらしさに触れ、どんな新しい発見や気づきがあるか、時々立ち止まって、ゆっくりと進んでいくことにしましょう。あまり名前にこだわる必要はありませんが、是非名前もという人には役立つことでしょう。順番に見ていくと、どこにどんな植物があるかもよく分かるはずです。